

(様式1)

平成29年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 007	提案機関名 環境農政局緑政部森林再生課
<b>要望問題名</b> 花粉症対策品種コンテナ苗木を活用した低コスト造林の検証について	
<b>要望問題の内容</b> 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 本県では、平成27年度より県内苗木生産者によるコンテナ苗木の生産が始まり、平成28年度においても生産規模の拡充により平成33年度末には5万本の生産体制が整えられつつある。 また、一方で本県では、裸苗による造林が進められてきた。全国的にコンテナ苗木の生産施設は整えられつつある中で、国としても苗木1000万本の生産体制を整えるために普及を進めているところである。 その様な中で、県としてもコンテナ苗木の植栽による優位性（植栽時期を選ばない、植栽が簡易等）を活かした造林方法の検証が急務である。 そこで、下記の点について要望する。 ・伐採・再造林の一貫作業による効率化 ・低密度植栽による低コスト化 ・植栽時期によるコスト比較	
<b>解決希望年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
<b>対応を希望する研究機関名</b>	①農業技術センター    ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
<b>備考</b>	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

<b>回答機関名</b>	自然環境保全センター	<b>担当部所</b>	研究連携課
<b>対応区分</b>	①実施    ②実施中    ③継続検討    ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
<b>試験研究課題名</b>	(①、②、④の場合)		
<b>対応の内容等</b>	花粉症対策品種のコンテナ苗の生産については、平成27年度より開始され、自然環境保全センターとしても林木育種事業等で開発した花粉症対策品種の種子等の生産確保に努めているところです。ご要望の・伐採・再造林の一貫作業による効率化については、林野庁が主導して全国で進められていると認識しております。しかし研究連携課単独では、木材搬出等の専門家がおらず、こうした課題を主体的に取り組むことは困難です。従って、各地での調査事例の検討した上で、植栽密度、植栽時期の課題とあわせ事業実施される場合での普及事業等による調査指導への協力や、現地指導対応、さらには実施後のモニタリングの対応とさせていただければ幸いです。		
<b>解決予定年限</b>	①1年以内    ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
<b>備考</b>			